

風土記の丘の花だより 184

今、そしてこれから見られる植物（2023年5月4日）

大型連休中ですので、発行日が変則的になり申し訳ありません。今、風土記の丘は「開花ラッシュ」と言っているほど、次から次へと花が咲き出しています。その中から何を紹介しましょうか。キツネからいきましょう。これはキツネアザミです。何となくアザミのようですが、色は薄いし、



花は小さいし、第一アザミ特有のトゲがありません。それもそのはず、同じキク科ではありますが、アザミのなかまではありません。難しく言うとキツネアザミはキツネアザミ属、アザミの仲間アザミ属です。遠くから見るとアザミのようですが、近づいてみると「あれ？アザミと違うやんか」となるので、「キツネに化かされたかなあ」ということで、こんな名前が付いたと言われています。では次のキツネを紹介し



これはケキツネノボタンです。花の後にできる実が丸くてボタンみたいなのでこんな名前になりました。「じゃあ、キツネは？」と言いたくなりますね。ケはもちろん「毛」のことで、草全体が毛深いからです。毛がほとんどないのは、ただのキツネノボタンで、風土記にはどちらも生えています。NHKの朝ドラにキツネノカミソリが出ていましたが、キツネやタヌキは昔から身近な生き物だったので、植物の名前にもよく使われたのでしょう。



今度はナスビです。この黄色い花はコナスビです。意味は「小さなナスビ」です。花の後にできる実が少し細長くて、丸っこいので、小さなナスビということです。といっても、ナス科の植物ではなく、なんとサクラソウ科です。他の草に紛れて、地面に広がって生える草なので、知らず知らずに踏みつけているかもしれませんね。でもこんな生え方をしている草は踏みつけに強く、少々のことでは枯れることはありません。踏まれても踏まれても強く生きていきます。



最後は視線を五月晴れの空に向けて眺めてほしいキリの花です。紫色のこんな花が落ちていたら上を見上げてください。きっとどこかにキリの花が咲いているはずですよ。

桐は花札では12月ですが（と言っても、今や花札をご存じの方も少なくなりましたね）今頃が開花の時期です。昔は女の子が生まれると、桐の木を植えて、それで嫁入り道具を作ったとか、作らなかったとか・・・。そんな話もいずれ語られなくなるのでしょうかね。はじめにも書きましたが、こんな時期ですので、次回は5月10日の水曜日の発行とさせていただきます。

松下